

平安女学院がマスコミに報道されました！！

インターハイ向け練習に熱気



厳しい条件 練習量でカバー
7年ぶり9度目の出場



「魅了する演技」へ決意

「大歌声の中の試合会場で雰囲気にまれないよう

7月28日から8月20日まで埼玉県で開催される全国高校総体(インターハイ)「彩夏祭08埼玉総体」の団体(新体操種目)に、上京区の平安女学院高校体操部(新体操)が7年ぶり9度目の出場を果たす。レギュラーメンバー15人のうち3人が1年生という厳しい条件で、練習量でカバーした。インターハイに向けて練習に励む体育館は熱気に包まれていた。(写真上)

平安女学院高校体操部(新体操)

ノーミス課題

昨年の府予選会では自分たちのミスで敗れたため、今年は「ミスは」絶対なかった。大会当日は「観客が女性敵に見るほどメーカも緊張していたので、練習で和ませよう」と心がけた。3年でキャプテン

に、気持ちのコントロールが、いかにできるかが課題」と小崎教諭。若林さんは「予選大会ではミスをしてしまったので、インターハイでもミスで、技のレベルも上げ、会場を魅了するような演技をしたい」と決意を新たにして、同校は、上京区下立売通鳥丸西入ル(075-414-8111)。

平安女学院高等学校 インターハイ出場決定！！

音楽が流れ始めた。リズムに合わせて「1、2、1、2」と声を合わせ、軽やかな足取りで練習に臨む部員たち。フロアに入れない選手も、同じ道具を使って手元で同じ動きをしたり、足でリズムを刻んだりして

印象に残る演技したい

も約30分ほどの合間を縫って体育館に駆け込む。しかし、通学圏の広い私学で女子校のため、夜は8時までには終わるようにしている。「高校総体に出る」という目標に妥協をしない一方、限られた時間でいかに集中

するかも、練習の大きな課題にしてきた。創作力が高いのも今年のメンバーの特徴。作品の骨格を小崎教諭が示すと、次々に肉付けする。現在もいくつかの技の難易度を上げてみたりと、高校総体の本

番で0.1秒でも採点を上げるために改良中だ。主将の若林いづみさん(17)はただ一人の3年生。「高校総体に出る」と言い続け、夢をかなえた。「見る人の印象に残る演技をしたい」と意気込んでいる。



しなやかな動きを披露する平安女学院高校体操部(新体操)の部員たち(上京区で)

2008年6月25日(水)
朝日新聞「あいあいAI京都」

2008年7月9日(水) 読賣新聞
「わくわくスポーツ 京都滋賀版」